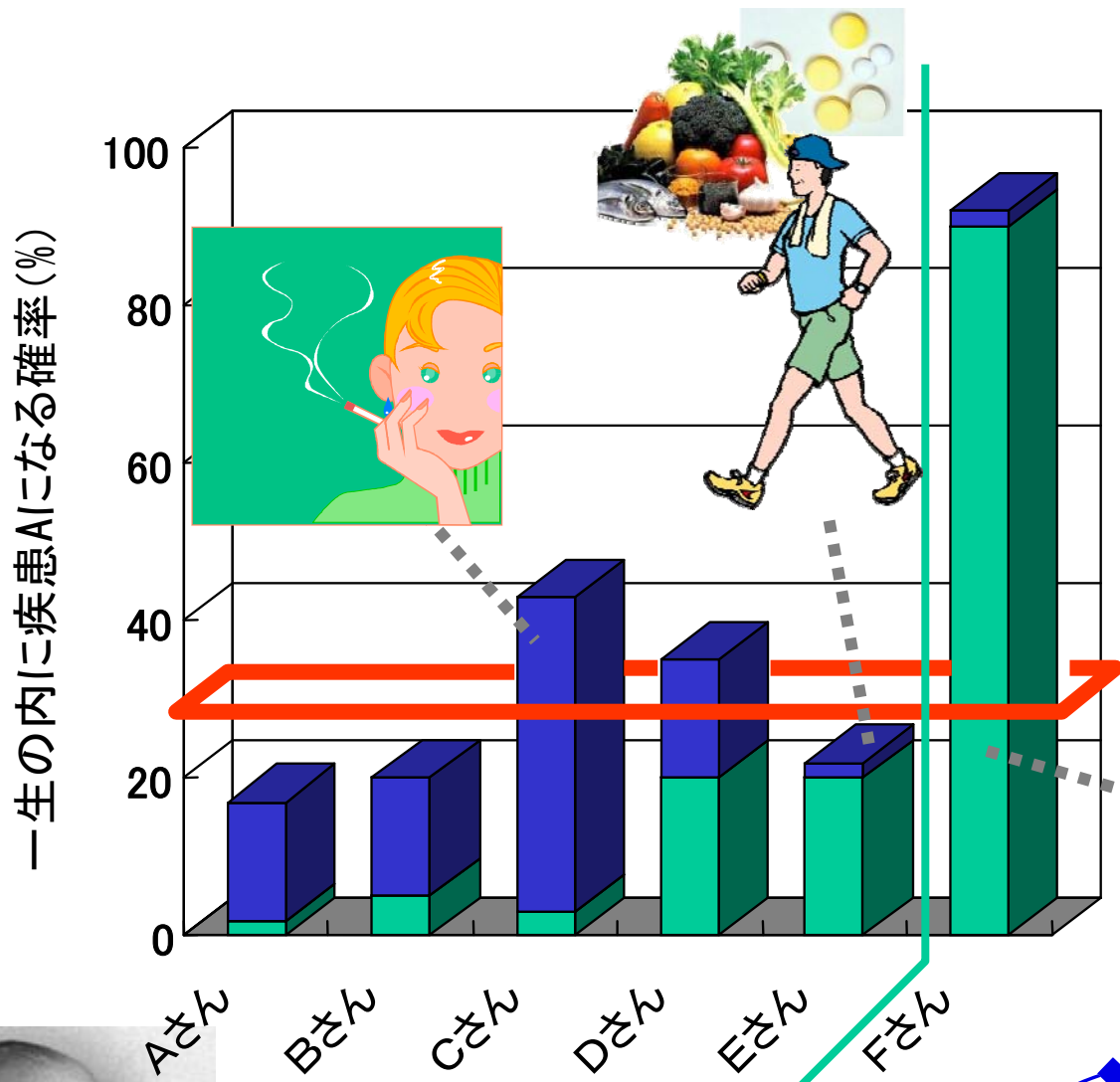


平成23年度の 研究計画と研究成果

A. 分子疫学コホートの構築と
情報統合に関する検討

 B. ゲノム解析

コホート研究におけるゲノム解析の使命と、予防への応用



- ✓ 同じ人でも、違う疾患に対しては全く違う組み合わせになりうる。
- ✓ 治療応答性(作用・副作用)についても基本的に同様に考えられる。

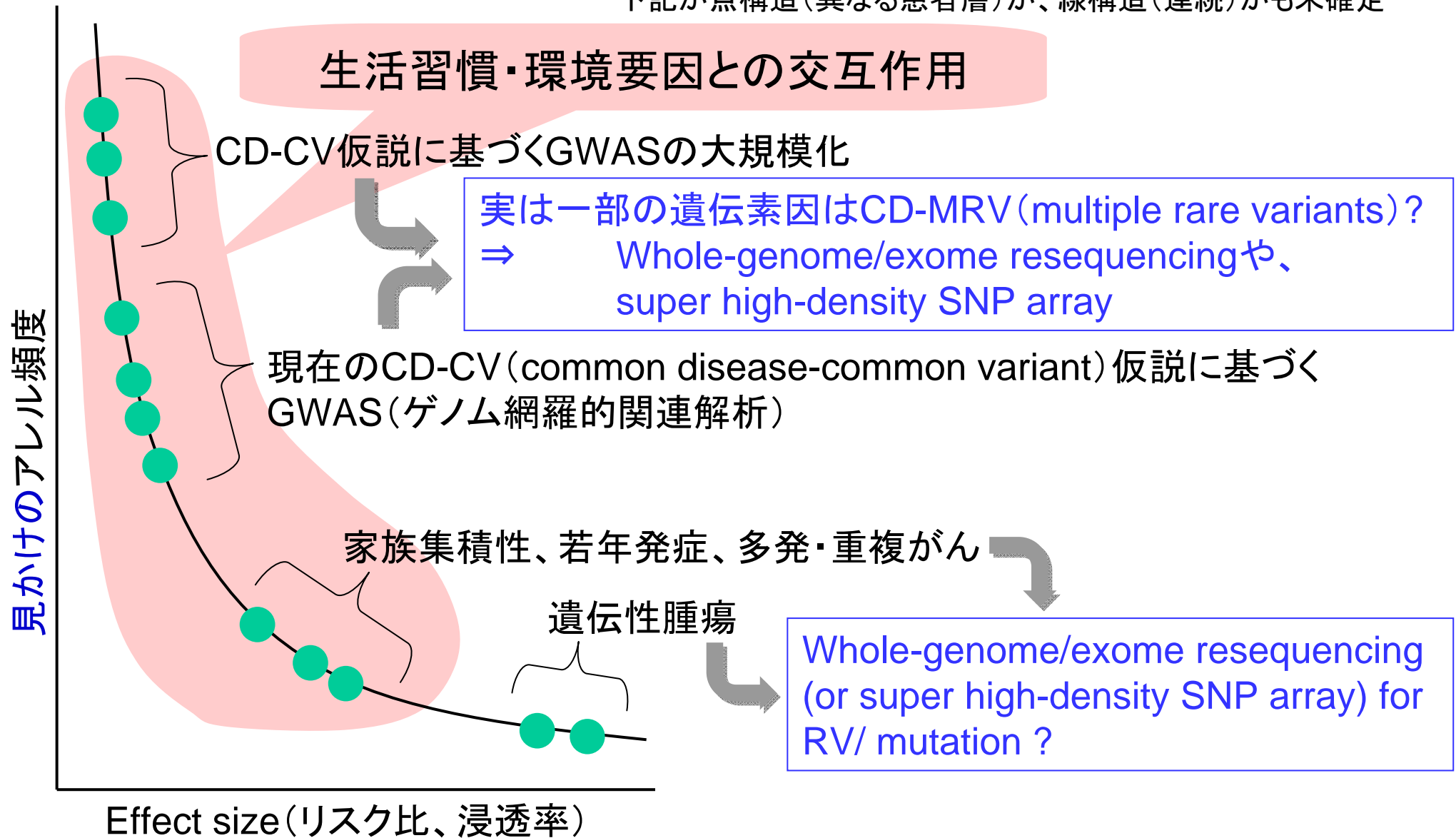
■ 遺伝因子
■ 生活習慣・環境因子



①複数ある遺伝素因と、②環境要因との交互作用の探索と、③それらの知見の個別化された検診、化学予防、生活習慣・行動変容等への応用法の開発・有用性検討が必要

Genetic Architecture of Disease Susceptibility (イメージ)

下記が点構造(異なる患者層)か、線構造(連続)かも未確定



Graph adapted from: Wright AF, Hastie ND. Complex genetic diseases: controversy over the Croesus code. Genome Biol. Epub 2001 Aug1.

ゲノムDNAのエピゲノム修飾過程



「エピゲノムはゲノムのお疲れ度」

(国立がん研究センター研究所 牛島先生)